

平成 20 年 7 月 25 日

土木局 武庫川企画調整課 ならびに
武庫川流域委員会・運営委員会 各位

委員 佐々木礼子

質 問 書

近年、流域の住民による川づくりを推進するためには、まず五感で河川に興味をもつことから始めることが必要であると囁かれ、全国では河川に関わるさまざまな取り組みが進んでいます。そのようななかで、流域に暮らす人々が親しみやすく、河川を理解するための最も手っ取り早いツールとして、アユをひとつの指標とした川づくりが全国で展開しつつあります。

身近なところでは、大和川などでも取り組まれ、遡上の確認などは PR も含め、紙上での発表を行うなど、積極的な姿勢がみられます。

そのようななかで、

○ 武庫川においては

＜武庫川づくりと流域連携を進める会(委員の7割近くが会員)＞では …時系列

- ・アユを指標とする武庫川づくりを目指し、流域連携のひとつの骨格として、会の発足時である、平成 18 年 9 月 15 日にシンポジウムを開催し、武庫川漁協や県内の他河川でアユの取りくみに先行する千種川から講師を招いた。
- ・武庫川漁協のヒアリング活動
- ・平成 20 年 5 月 18 日、漁協による武庫川でのアユの放流を見学
- ・平成 20 年 6 月 8 日、武庫川で全国一斉水質環境調査に取りくむ
- ・会員による河川状況や釣り人などからのヒアリング調査 … 随時
- ・今年度内にアユに関わるシンポジウムの開催を予定
- ・今年度原稿編集予定のガイドブックにアユに関わる情報についても反映することを予定
- ・今後、シンポジウムや河川での各種イベントなどにより、アユを通じた川づくりの啓発活動を継続的に進める予定

＜兵庫県のとくに武庫川企画調整課＞では

- ・河川整備基本方針策定に向け、昨年 12 月までの 3 回の河川審議会での答申を経て出された最終河川整備基本方針案にはアユの遡上に関わる事項が盛り込まれ、国への同意が申請された。

以上のように、委員有志の会では積極的にアユを主軸とした川づくりへの取りくみに向けた活動をすでに始動しております。しかしながら、河川管理者サイドでは、答申までのさまざまな経過を経て原案に文言として盛り込まれたということまでのみが明白であり、それを受けて今後の方向性を示すようなサジェスションを既に始動されている内容については何ら公開されておられません。

そこで、「54 回におよんだ流域委員会の内容やパブリックコメント、河川審議会の答申を経た基本方針を鑑み、アユをはじめとする魚類の遡上に対してどのような取りくみを行なう方針で計画をたて、それに向けた着手をされているのか」提示していただきたく、質問書として提出いたしました。ご回答、よろしく願いいたします。